

向日市立勝山中学校 第77回入学式 式辞

新たな時代を感じさせる春のよき日、本日、令和5年度 向日市立勝山中学校、第七十七回入学式を挙行いたしましたところ、向日市教育委員会 教育委員 中野 緑（なかの みどり）様、京都府議会議員 磯野 勝（いその まさる）様、本校PTA会長 藤井 友香子（ふじい ゆかこ）様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、高段からではございますが、厚く御礼申し上げます。

194名の新入生の皆さん、勝山中学校への入学、おめでとうございます。皆さんは、今日から、勝山中学校の生徒として、大きな一歩を踏み出します。壇上からみなさんの表情を見ていますと、緊張感とともに、これから始まる中学校生活に、胸をふくらませている様子が伝わってきます。新しい環境でのスタートに当たり、勝山中学校の生徒や先生、卒業生も大切にしている言葉を紹介します。

（それは、皆さんの後ろに掲げられている三つの言葉です。）

一つ目は、勝山中学校の校訓であり、校歌の歌詞にも入っている「自由・責任・協同」です。学校で生活する誰もが自由に、自分らしく生き生きと生活する中で、必要なルールを守り、任された役割は責任を持ってしっかりと果たすことが大切です。そして、一人ではできなかったことも、力を合わせることで達成できるようになる、そんな成長への思いが込められています。

二つ目は、「人との出会いを大切に」という言葉です。人にはそれぞれ得意・不得意があります。それぞれの人を持つ「良さ」や「個性」を認め合い、今までの自分にはなかった、ものの見方や考え方を吸収したり、心と心を通い合わせる中で、自分の世界を広げていってほしいと思います。今日出会った友達や先生との出会いを、そして明日から、日頃、支えてくださっている地域の方々を含め、多くの人との出会いを大切にしてください。

三つ目は、「一生懸命はかっこいい」という言葉です。まだ、記憶には新しいワールド・ベースボール・クラシックでの侍ジャパンの活躍の中でも、私は、目標に向かって選手がひたむきに一生懸命プレーする姿とともに、対戦後に相手チームを互いにリスペクトしあう姿に、「かっこいい」と感じました。結果がでなくても努力し続けた選手どうしだからこそ、互いに尊重し合えたのだと思います。

みなさんには、「一生懸命は当たり前、自分の弱さから逃げず、努力し続ける」、本当にかっこいい姿を見せてくれると期待しています。

さて、学校とは、未来を創造する、創り出す場所です。

これからの未来は、「ソサイエティ5.0」として、今までにない新たな価値を生み出す未来とも言われています。その中には、この3年間の感染症のような困難に遭遇するかもしれません。

明日からの中学校生活では、どのような困難と出会っても、自分らしく幸せに生きていくための基盤として、教科の学習だけでなく、体育大会、文化祭などの学校行事にも取り組みます。

その中で、どうしても一人では解決できない、また、「答えのない課題」に出会ったときには『他人と協働』することが必要です。協働的な学びとは、一人一人の知恵を出し合い、互いの考えを尊重し、そして、解決に向けて動き出すことです。この学びのプロセスも大切にして、新たな価値を創り出してほしいと思っています。先生たちも全力で応援します。

後になりましたが、保護者の皆さま、本日は、お子様のご入学、誠におめでとうございます。

中学生は、思春期の最も多感な時期を、自立への一歩として、悩みや不安に揺れながらも、少しずつ成長していきます。近くで見守られている保護者の皆様も悩まれることがあるかと思いますが、私たち教職員一同、皆様の悩みを真剣に受け止め、ともに悩み、ともに育てるという姿勢で、子どもたちの成長に全力を尽くす所存でございます。

また、感染症対策といたしましては、マスクの着用を不要とするなど対策が緩和されましたが、朝の検温など、お子様の健康観察につきまして、今しばらく、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

結びに、新入生の皆さん、今日の新たな出会いを大切に、夢と希望に向け、挑戦し続ける勝山中学校の生徒として、その第一歩を踏み出してくれることを願い、私の式辞といたします。

令和五年 四月十二日

向日市立勝山中学校 校長 田邊 忠和